

平成27年度スーパーグローバルハイスクール構想調書の概要

指定期間	ふりがな	いしかわけんりつかなたせきやまがはらひがこうとうがっこう				②所在都道府県	石川県
27～31	①学校名	石川県立金沢泉丘高等学校					
③対象学科名	④対象とする生徒数					⑤学校全体の規模	
	1年	2年	3年	4年	計	全校生徒数 1200 名 (普通科 1080 人 理数科 120 人)	
普通科	360	40 (SGコース)	40 (SGコース)	—	440		
⑥研究開発構 想名	多面的に考え、多角的に行動する力を持ったグローバル・リーダーの育成						
⑦研究開発の 概要	グローバル社会に対応する基盤となる国際的素養や探究スキル等の習得、スーパーグローバル大学やグローバル企業等との連携、国内フィールドワーク、海外成果発表等の体験、文理融合を意識した学習の取組等を通し、課題発見力・主体的解決力を向上させ、グローバル・リーダーに必要な力や資質を育成する。						
⑧ 研究開発の内容等	⑧ -1 全体	<p>(1) 目的・目標</p> <p>持続可能な社会の構築に向けて、生徒がグローバル課題を解決するための調査・研究を行い、自ら課題を発見し設定する力や、その課題の解決に向けて多面的に考え、多角的に行動できる力・英語で発信する力を育成するためのカリキュラム開発を本事業の目的とする。</p> <p>また、その目的に向けて、探究型学習を軸としたカリキュラムの開発や効果的な探究活動の促進、評価システムの確立を達成すべき目標として設定する。</p> <p>(2) 現状の分析と研究開発の仮説</p> <p>本校は、県内有数の進学校として大学進学において実績を収め、地域を支える優秀な人材を多く輩出しているが、海外で活躍する優秀なグローバル・リーダーを輩出しているとは言い難い。しかし、海外からの大学生、高校生との交流の機会等では参加希望の生徒が多く、海外への関心は高いと思われる。学校経営目標に「世界を視野に」という文言を掲げていることを踏まえて、グローバル人材を育成するための取組を早急に行いたいと考えている。</p> <p>そこで、本校の現状における課題を踏まえ、グローバル・リーダーを育成するための5つの仮説を設定した。</p> <p><b>仮説1</b> 1年次から多面的なものの見方、考え方を養うことで、現代社会の諸課題に対する問題意識を醸成するとともに、必要な教養、スキルを身に付けることができる。</p> <p><b>仮説2</b> 自ら課題を見出し、探究活動を行うことで、課題発見・設定力や論理的思考力や表現力、情報収集・分析力やディスカッション力等を育むことができる。</p> <p><b>仮説3</b> 文理の枠を越え、文系的な言語感覚、実験等を通じた理系的なものの見方や分析法も学習することで、複数の学問分野を俯瞰できる視野の広さや国際感覚・科学的考察力を身に付けることができる。</p> <p><b>仮説4</b> 生徒自らが情報源にコンタクトしたり、発表会の企画・運営に携わったりすることで、主体的にアクションを起こすために必要な行動力等を育むことができる。</p> <p><b>仮説5</b> 課題研究と密接に関連した英語のカリキュラムを開発・実践することで、実践的な英語のコミュニケーション能力・発信力を向上させることができる。</p> <p>(3) 成果の普及</p> <p>① SGH 説明会 (対象：県内中学生、9月実施予定)</p> <p>② SGH 発表会 (対象：本校及び中学・高校関係者 10月実施予定)</p> <p>③ SGH 研究報告会 (対象：学校関係者、外部の有識者 2月実施予定)</p> <p>④ 北陸3県SGH合同成果発表会 (対象：県内外の教員、保護者、2月実施予定)</p> <p>⑤ SGH 実施報告書 (対象：県内高校及び教育機関 年度末作成→配布)</p> <p>なお、各種研究会での発表、ホームページによる情報発信を積極的に行う予定である。</p>					

⑧ -2 課題 研究	<p><b>(1) 課題研究内容</b></p> <p>本研究の大テーマを「人間の活動と生態系の調和～いしかわの自然・文化・社会から見るグローバル課題の考察」とし、「環境・エネルギー」「豊かさとコミュニティ」の2つのサブテーマを京都大学・東京外国語大学・金沢大学等のスーパーグローバル大学や(株)コマツ、国連大学等と連携をとりつつ、資源、生活水準、環境等、様々な視点から人間の活動と生態系の調和の問題をとらえていく。</p> <p>[主な連携先] 京都大学：大学教授による講義、留学生・大学院生等による指導等  東京外国語大学：大学教授による講義、留学生・大学院生等による指導等  金沢大学・北陸先端科学技術大学院大学等の地元大学からのピアサポート  国連大学：データ分析の手法等の指導等  (株)コマツ：企業活動の視点からの特別講義、海外拠点地での研修等  プリンストン高校・建国高級中学：研究成果発表等</p> <p><b>(2) 実施方法・検証評価</b></p> <p>1年は普通科全クラスを対象とし、「SG 思考基礎」においてグローバル社会において必要な教養・スキルを身に付けることを通して、課題探究に向けた基盤づくりを行う。併せて、大学及びグローバル企業の特別講義や国連大学訪問も行う。</p> <p>また、「SG 探究基礎」を開講し、課題研究を行う上で必要となるスキルを身に付け、課題研究に向けた基盤を形成する。併せて、1～3年で開講する英語の学校設定科目「グローバル・イングリッシュ」等において、グローバルな社会課題に関する論文等を読んだり、海外の学生等との意見交換などを通して、課題に対する認識を深め、課題解決に向けた方策を探るとともに、英語活用能力を高め、英語によるプレゼンテーションや論文作成につなげる。</p> <p>2年以降は、SG コース(1クラス)の生徒に特化し、2年では「SG 探究」において文理融合を生かした課題研究を行い、課題を深く探究する力を身に付ける。また、課題研究と関連づけて、国内でのフィールドワークや外国人留学生とのワークショップ、海外での研究成果発表等も行う。</p> <p>3年では、「SG 探究活用」において研究成果の発信・提言をすることで、グローバル・リーダーに求められる発信力を身に付ける。また、生徒が論文作成することや主体的に発表会を企画・運営することで、企画力や行動力・発信力が一層強化されるものとする。</p> <p>検証評価については、生徒のアンケートやレポートによる評価を主としながら、ループリックによる評価も活用していく。また、対外的な各種検定の受験やコンクールの参加状況等も反映させ、今後の指導改善につなげていく。</p> <p><b>(3) 必要となる教育課程の特例等</b></p> <p>「現代社会(2単位)」及び「社会と情報」の一部の内容(2単位分)を削減し、その内容については学校設定科目の「SG思考基礎(3単位)」で代替する。</p>
⑧ -3 上記 以外	<p><b>(1) 課題研究以外の研究開発の内容・実施方法・検証評価</b></p> <p>2年・3年次のSGコースにおいて、「SG 数学」を開講し、課題研究を行う上で必要となる緻密な推論の仕方や本質を見通す判断力、科学的根拠に基づいた思考力を身につける。</p> <p>検証評価については生徒から提出されるレポートや定期考査等から判断される生徒の実態、変容把握による評価を行う。</p> <p><b>(2) 課題研究の実施以外で必要となる教育課程の特例等</b></p> <p>必要としない。</p> <p><b>(3) グローバル・リーダー育成に関する環境整備、教育課程課外の取組内容・実施方法</b></p> <p>以下の4点について、組織的にかつ継続的に展開する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 帰国・外国人生徒の積極的な受け入れ</li> <li>② 外国人留学生とのアカデミックなワークショップ</li> <li>③ 模擬国連、各種コンテスト等への積極的な参加</li> <li>④ グローバル・リーダー育成を目標としたキャリア教育の体系化</li> </ol>
⑨ その他 特記事項	<p>SSH 指定校としての本校の特色を生かし、文理を融合した学習方法(文理融合プログラム)を開発する。課題研究においては、SSH との意見交換・協力をを行う。</p>

ふりがな	いしかわけんりつかなざわいずみがおかこうとうがっこう	指定期間	27～31
学校名	石川県立金沢泉丘高等学校		

## 平成27年度スーパーグローバルハイスクール 目標設定シート

1. 本構想において実現する成果目標の設定（アウトカム）									
		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	目標値(31年度)
自主的に社会貢献活動や自己研鑽活動に取り組む生徒数									
a	SGH対象生徒:			人	人	人	人	人	80人(H31)
	SGH対象生徒以外:	60人	70人	人	人	人	人	人	100人(H31)
目標設定の考え方: 社会課題への問題意識の高まり, 社会貢献活動への参加増。(実数をアンケート調査)									
自主的に留学又は海外研修に行く生徒数									
b	SGH対象生徒:			人	人	人	人	人	20人(H31)
	SGH対象生徒以外:	1人	2人	人	人	人	人	人	2人(H31)
目標設定の考え方: 各種の取組による, 海外での研修に対する積極的参加。(実数を調査)									
将来留学したり, 仕事で国際的に活躍したいと考える生徒の割合									
c	SGH対象生徒:			%	%	%	%	%	90%(H31)
	SGH対象生徒以外:	60%	62%	%	%	%	%	%	65%(H31)
目標設定の考え方: 国連大学との連携を通じての国際機関の取組や国連活動への興味・関心の高まり。(意識調査を行う)									
公的機関から表彰された生徒数、又はグローバルな社会又はビジネス課題に関する公益性の高い国内外の大会における入賞者数									
d	SGH対象生徒:			人	人	人	人	人	4人(h31)
	SGH対象生徒以外:	2人	2人	人	人	人	人	人	2人(H31)
目標設定の考え方: 国連大学の取組による, 国連そのものへの興味増大, 模擬国連大会等の参加。									
卒業時における生徒の4技能の総合的な英語力としてCEFRのB1～B2レベルの生徒の割合									
e	SGH対象生徒:			%	%	%	%	%	100%(H31)
	SGH対象生徒以外:	2%	3%	%	%	%	%	%	10%(H31)
目標設定の考え方: 異文化圏の人々との交流による, 英語への関心のさらなる高まりによるTOEFL Junior 750点以上比率。(3年夏に調査)									
(その他本構想における取組の達成目標) 様々なデータを駆使し、客観的な分析ができる生徒の割合									
f	SGH対象生徒:								100%(H31)
	SGH対象生徒以外:								10%(H31)
目標設定の考え方: 課題研究論文を元にルーブリックによる評価を行う。									

1' 指定4年目以降に検証する成果目標								
	25年度	26年度	30年度	31年度	32年度	33年度	34年度	目標値(34年度)
国際化に重点を置く大学へ進学する生徒の割合								
a	SGH対象生徒:		%	%	%	%	%	90%(H34)
	SGH対象生徒以外:		39%	42%	%	%	%	50%(H34)
目標設定の考え方: 課題研究を通じての視野の広まり, より高い進学志望。(進学者数を調査)								
海外大学へ進学する生徒の人数								
b	SGH対象生徒:		人	人	人	人	人	2人(H34)
	SGH対象生徒以外:		0人	0人	人	人	人	1人(H34)
目標設定の考え方: 海外大学の進学説明会等の実施による, 国内外両方に対するの大学進学志望者の増加。(海外への進学者数を調査)								
SGHでの課題研究が大学の専攻分野の選択に影響を与えた生徒の割合								
c	SGH対象生徒:		%	%	%	%	%	90%(H34)
	SGH対象生徒以外:		-	-	-	-	-	-
目標設定の考え方: 課題研究を通じての問題意識の高まり, 結果, より明確な進路意識。(志望についてのアンケートを実施)								
大学在学中に留学又は海外研修に行く卒業生の数								
d	SGH対象生徒:		人	人	人	人	人	40人(H34)
	SGH対象生徒以外:		-	-	-	-	-	-
目標設定の考え方: 高校における海外研修を通じての大学時代の留学への影響大。(大学2年生に対して実態調査する。)								

2. グローバル・リーダーを育成する高校としての活動指標（アウトプット）								
	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	目標値(31年度)
課題研究に関する国外の研修参加者数								
a	4人	8人	人	人	人	人	人	40人(H31)
目標設定の考え方: SGH生への2年次海外研修全員実施。								
課題研究に関する国内の研修参加者数								
b	40人	40人	人	人	人	人	人	40人(H31)
目標設定の考え方: 1年次に希望者による留学生との交流, SGH2年次の全員国内研修。								
課題研究に関する連携を行う海外大学・高校等の数								
c	0校	2校	校	校	校	校	校	3校(H31)
目標設定の考え方: 欧米・アジアの3地域との提携、交流。								
課題研究に関して大学教員及び学生等の外部人材が参画した延べ回数(人数×回数)								
d	4人	10人	人	人	人	人	人	100人(H31)
2年次の課題研究に関わる指導・助言・評価等による大学教授・大学生・院生の参加。								
課題研究に関して企業又は国際機関等の外部人材が参画した延べ回数(人数×回数)								
e	0人	0人	人	人	人	人	人	50人(H31)
目標設定の考え方: 1年次の特別講演2回実施, 国連大学との連携による院生との交流。								
グローバルな社会又はビジネス課題に関する公益性の高い国内外の大会における参加者数								
f	2人	0人	人	人	人	人	人	80人(H31)
目標設定の考え方: 課題研究を通じての, 現実社会課題に対する関心の増大。(卒業までに参加を奨励)								
帰国・外国人生徒の受入れ者数(留学生も含む。)								
g	0人	0人	人	人	人	人	人	2人(H31)
目標設定の考え方: 海外からの留学生に対する受け入れ, 交換留学の体制。								
先進校としての研究発表回数								
h	3回	3回	回	回	回	回	回	6回(H31)
目標設定の考え方: 校内発表2回, 海外での発表1回。(SSHの発表を含む)								
外国語によるホームページの整備状況								
○整備されている △一部整備されている ×整備されていない								
i	×	△						○
目標設定の考え方: 海外の高校などに向けての留学の受け入れ等を含む内容発信。								
(その他本構想における取組の具体的指標)探究活動における理系的手法の活用数								
j								50%(H31)
目標設定の考え方: 課題研究に理系的手法で取り組んだ生徒の割合								

<調査の概要について>

1. 生徒を対象とした調査について

	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
全校生徒数(人)	1,156	1,192	1,200	1,200	1,200	1,200	1,200
SGH対象生徒数			360	400	440	480	520
SGH対象外生徒数			840	800	760	720	680